

第7回全国コミュニティ大会挨拶

主催者挨拶(要旨) 業務開発・広報委員会 委員長 西岡 郁夫

業務開発・広報委員会は、ITCの皆さんに資格を取ってよかったと思ってもらえるように、また、ユーザーの企業の皆さんにITCのおかげで助かった、ありがとう、といわれるようなITCの活動の場をもっと広げていきたいと考え、具体的にいくつかの施策を進めてきている。

まず、ひとつめは、ITC活動を定着させるために、昨年度からIT経営応援隊との連携を進めてきた。IT経営応援隊は中小企業の経営者に対してもっと「IT経営」を啓発する国策だが、ITC協会はITCに対して支援する組織である。これらが車の両輪として企業のIT経営を加速する活動を行ってきた。

具体的には、昨年9月の全国コミュニティ大会で、ビジネス志向のITC組織に事業計画の策定を呼びかけ、立上げ計画を提出してもらった11組織に対して、全国3箇所(京都、富山、広島)でワークショップを開催した。ここには地元の経済局やすでにITCビジネス化に成功している実績のあるITCにも参加してもらい、それぞれの計画に対してガンガン忌憚のない意見交換を行った。

このようにして、きちっとした事業計画のできた組織に対して今後、協会から金融機関との連携などを紹介していきたいと考えている。

更に、昨年度、ITCの活動を広げる連携のひとつとして、実績のあるITCがいるITC組織を対象に、中小企業金融公庫との連携を経済産業省のご指導を得て3地域で実施した。公庫のお客様を対象にした経営者研修などの活動の結果、すべての支店から良い評価をいただくことができ、今年度も是非継続してほしいとの要望を戴いた。今年度はこうした活動を更に広げていきたいと考えている。

このように協会は、ITCと顧客とのマッチメイクを精力的に行い、ITCの存在をより多くの経営者に認知してもらうよう、広報活動も含め努力してやっていくが、この活動が成功するかどうかは一にして各ITCおよびITC組織が本気で立ち上がって自立的にビジネス成立のために邁進してもらえるかどうか、に掛かっている。

本日これから発表があるような各地の実績を知ってもらい、既に立ち上がって活動しているITC組織の経験と知恵を共有し、ITC同士、組織同士の連携・情報交流をすすめるような機会にしていただければ、今日の大会を開いた意義があると思う。

以上